

組合員の皆様へ

 ちばこどもおうえんだん

生活クラブ虹の街
生活協同組合パルシステム千葉
なのはな生活協同組合

「こども・若者未来基金」への寄付のお願い

(NPO 法人) ちばこどもおうえんだんの「こども・若者未来基金」の趣旨に賛同した、県内3つの生協(生活クラブ虹の街・生活協同組合パルシステム千葉・なのはな生活協同組合)が、同じ時期に、寄付募集統一キャンペーンを行っています。

社会的養護の下に暮らす子ども達の大学等への進学率は、全国平均進学率(一般の子ども達)に比べかなり低い状況であることが指摘され、このため、近年、公的な自立支援施策が強化されるとともに、さまざまな民間団体による支援活動も行われるようになりました。高校を卒業して就職先が決まった人、進学が決まった人には、充分とは言えないながらも、それなりの支援があるといえます。

しかし、高校等を中退して18歳以前に施設や里親のもとを離れざるをえなくなった人や、18歳で進学、就職をしたものの中退、離職をしてしまった人の行き場はほとんどありません。また、ようやく自立援助ホーム等の機関にたどり着き一定期間過ごしたうえで、就職、進学の意思をかためた人などへの支援はきわめて不十分です。ちばこどもおうえんだん「こども・若者未来基金」は、こうした人たちの多様な自立を支え、自立への移行期間を支援していきます。今回の基金は、4団体で1千万円を集めることを目標としていますの基金の内容等は、裏面をご覧ください。

特定非営利活動法人ちばこどもおうえんだんについて

(NPO 法人) ちばこどもおうえんだんは、「千葉県内に暮らす辛い思いをしている子どもたちのことを何とかしたい!」と、2015年4月に①社会的養護の必要な子どもの自立支援、②貧困家庭・要支援家庭の子どもの支援事業、③里親家庭の支援事業、④啓発・広報事業及び政策提案、⑤調査研究・情報収集事業を目的に設立しました。

同年7月より千葉市里親制度推進事業を受託し、千葉県内4生協(生活クラブ虹の街・生活協同組合コープみらい・生活協同組合パルシステム千葉・なのはな生活協同組合)や労働福祉団体(一般社団法人千葉県労働者福祉協議会)が参画し事業をすすめています。

また、このたび設立した「こども・若者未来基金」は、生活クラブ虹の街・生活協同組合パルシステム千葉・なのはな生活協同組合の参加のもと企画運営されています。



【お問い合わせ先】

生活クラブ虹の街 福祉・たすけあい事業部

電話 043-278-7768

〆切 2017年11月24日(金)

-----きりとり-----

こども・若者未来基金寄付申込み

生活クラブ虹の街

〆切 2017年11月24日(金)

こども・若者未来基金()口(1口¥1000)カンパします。

※12月の共同購入代金に合算し引き落とします。

氏名

(組合員コード

) 電話番号

*いただいた個人情報は適切に管理し、目的以外には使用いたしません。

事務局記入欄: センター・デポ名() 配達コースNo()

社会的養護で育った子ども・若者の自立を、伴走者ごとおうえんします！

社会的養護下に暮らす子たちの自立への支援は、民間を中心に少しずつではありますが整備されようとしています。しかしほとんど後ろ盾のない子たちの自立には困難がついて回ります。いったんは挫折しても再チャレンジしたい、そんな子たちに寄り添い以下のような支援をします。

自立にかかるお金は？

アパートを借りる
家賃5万円として・・・
敷金・礼金・2か月分の家賃など、少なくとも
25万円必要

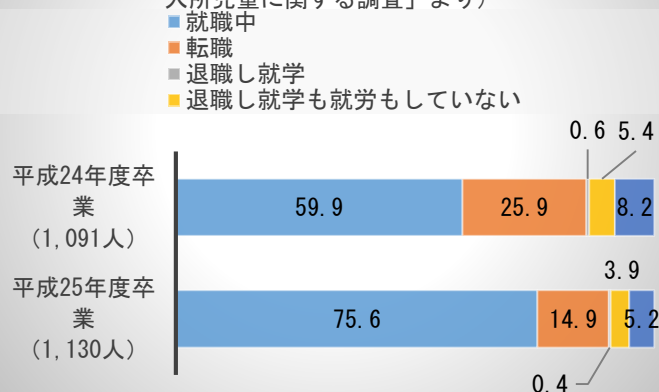
大学・専門学校などに進学の場合
入学金＋授業料＋月々の生活費がかかります。ほとんどの子どもは、アルバイトと奨学金、貯金の取り崩しで賄います。ダブルワークで、挫折する子も・・・

家財の購入
およそ **15万円**

自動車免許取得
およそ **25万円**

児童養護施設退所児童（高等学校等卒業）の就労状況

（全国児童養護施設協議会「H26年度児童養護施設入所児童に関する調査」より）



◆お金でおうえん

	内容
くらしスタート（住宅サポート）	一人暮らしを始めるにあたり必要な資金を援助 *住宅資金（敷金・礼金など） *自立時の家財購入
くらしサポート	進学した子どもの月々の生活の援助
資格サポート	資格取得に必要な資金の援助
まなびサポート	入学や進級時の一時金
途中も緊急もサポート	就職したあとの資金援助・つなぎ資金
入学金つなぎサポート	他の奨学金からの借入金が支払われるまで、入学金等の仮払い

◆お金以外でおうえん（2018年度以降、実施予定）

	内容
就職支援	インターンシップ・就職体験、紹介など
住居紹介	低価格・保証人不要住居の紹介

◆伴走者をおうえん 子どもたちに寄り添う伴走者の経費の補助

伴走者とは、既存の専門機関、児童養護施設、自立援助ホーム、アフターケア事業者、生活困窮者自立支援窓口、若者サポートステーションなどを想定しています。

私たちもおうえんしています！

自立とは、一人で生きてゆくことではなく、困った時、苦しい時に相談・頼ることも自立する力となります。ゆっくり、自分らしく社会という大空に飛び立つ彼ら・彼女らを応援してください。そして、疲れた時戻って来られる場所として私たち施設があり、再び飛び立つ力として皆さんがあり、この未来基金があるのだから。

児童養護施設子山ホーム園長 森田雄司

全国にいる里子たちは、進学資金では、かなりの苦勞をしています。

親に引き取られずにいる子ばかりで、入学金から困難ですので、様々な奨学金に応募します。可否にはじまり、入学してからもお金が続きますので、心が凍りそうになります。これは、翌年度以降も続き、学校の授業よりもアルバイトが優先になります。そんな子ども達への給付の話です。とても有難くなります。日本全国にこういった活動が普及し、多くの子ども達の未来への夢を叶えてほしいと思います。

千葉県里親会副会長 日高真智子

施設や里親の元で育った若者たちは、ケアを離れると同時にありとあらゆる後ろ盾を失います。それは、救命胴衣無しで大海原に飛び込むようなもの。彼らが前に進むためには、多くの支えが必要です。私も、多くの方に様々な形で応援していただいたおかげで、ようやくこの世界でいきいきと生きることができるようになりました。私と同じように、多くの若者が支えを必要としています。皆様の温かいご支援を、心よりお願い申し上げます。

千葉県生実学校 川瀬信一（2006年 一宮学園卒）